

【表現学関連分野の研究動向】  
国語教育（表現指導）

堀江 祐爾

国語教育研究における表現学関連分野の研究動向についてまとめる。平成20（小・中）と21年（高）に告示された学習指導要領では、表現研究にも関係のある大きな変化が示された。①「文字の読み書き」から「文字に加えグラフ・画像などの非連続型テキストの読み書きも国語科において扱うこと」が明確にされた。②「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が設けられた。

全国大学国語教育学会の研究紀要『国語科教育』に掲載された論文の中から、こうした変化に対応した表現学に関連する3編の論文を取り上げ、概要を示すことにする。対象は第69集（平成23年3月31日発行）と第70集（平成23年9月30日発行）である。学会ホームページより論文本文が入手可能である。

<http://www.gakkai.ac/JTSJ/>

【第69集掲載の論文より】

■有働玲子（聖徳大学）「絵本の絵とことばを読む：絵本『スイミー』を中心に―」…有働は、構造、プロット、スタイル、形式、視点、時制、設定、トーン、語彙、登場人物と登場人物の相関、象徴性などを、絵本「スイミー」のテキスト分析と解釈のための指標として用いている。

連続型テキスト（文章）と非連続型テキスト（挿絵）との関係をさぐった表現分析論となっている。

【第70集掲載の論文より】

■中井 悠加（広島大学大学院）「絵画を用いた詩創作指導の意義― Michael &

Peter Benton (1997) を中心に―」…イギリスにおける「絵画を用いた詩の創作指導」を取り上げた論考である。著名な絵画を子どもに観せ、そこからことばをつむぎだしていく。「ことばと絵画がお互いの学習のための補助としてではなく、両者が完全に連動し、切り離すことの出来ない形で存在しているという、ことばと絵画の相互補完的な関係が必要不可欠である。」と論者はまとめている。

連続型テキスト（詩）と非連続型テキスト（絵画）との関係をさぐったという意味において表現学に関係する論文である。

■植山俊宏（京都教育大学）「伝統的な言語文化の言語活動を考える：コーディネーター、及び短歌創作学習の視点から」…第120回全国大学国語教育学会（京都大会・平成23年5月28日）においてシンポジウム「伝統的な言語文化の言語活動を考える―創作学習の視点から―」が開催された。植山は、コーディネーターとして次のように、継承だけでなく創作（表現）の重要性に言及している。

「伝統的な言語文化には二つの側面がある。

一つは、伝統的な言語文化自体の継承である。狂言、歌舞伎、古典作品の理解・鑑賞などの学習がこれにつながる。

もう一つは、伝統的な言語文化の方法を使った創作である。俳句、短歌の創作学習はこの立場である。広げれば詩の創作にも当てはまる。創作を通して伝統的な言語文化の担い手を育成していくことが国語教育の一つの任務だということを確認し、共有していきたい。」

（兵庫教育大学）